

5. 開かれた研究体制

国内外の研究機関からの研究員（客員研究員，博士研究員，国際特別研究員）の受け入れや，大学などとの共同研究，東濃地震科学研究所との研究協力を進めるほか，他の機関から依頼のあった試料のペレトロン年代測定装置による分析などを行っています。また，瑞浪インターガーデン用地内に建設した瑞浪地科学研究館を外部研究機関も利用できる施設として運用するとともに，瑞浪地科学研究館の向かいに建設した瑞浪国際地科学交流館が，平成15年4月から利用できるようになりました。



海外研究機関との共同研究

6. 地域社会との交流

地層科学研究はもとより，原子力全般に関する仕事の内容を知っていただくため，地域行事への参加やセミナーの開催などを行い，多くの方々の交流を積極的に行います。



瑞浪地科学研究館

7. 情報公開

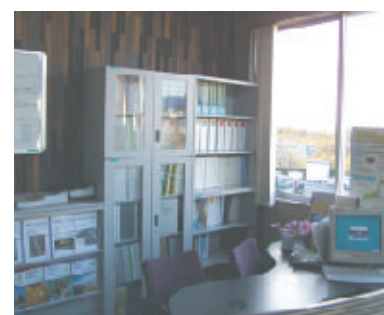
核燃料サイクル開発機構に関する業務について，東濃地科学センター内に常設しているインフォメーションルームで報告書などの研究成果を公開しています。さらに，ホームページなどを通じて，研究内容や施設の紹介などの情報提供を行っています [http://www.jnc.go.jp]。



セミナーの開催

8. 安全管理

東濃鉱山とその周辺では，鉱山からの排水や周辺の河川水を採取・分析し，安全管理を徹底しています。これらの結果はホームページなどでご覧いただけます。



インフォメーションルーム

9. 環境マネジメントシステム（ISO 14001）

平成14年9月に環境管理に関する国際規格 ISO 14001の認証を取得し，この規格に基づいて地層科学研究およびその関連業務を進めています。



鉱山などから採取した水の分析